

丹鶴叢書

萬代和歌集 十一十二



18m1
20m1
30m1

2 3 4 5 6 7 8 9
10m1
2 3 4 5 6 7 8 9
18m1
20m1
30m1

2 3 4 5 6 7 8 9
10m1
2 3 4 5 6 7 8 9
18m1
20m1
30m1



萬代和歌集卷第十一

高柳

經年未とす

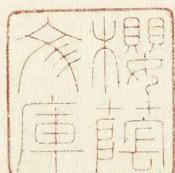
続後撰恋二題不知

京極翁宣白太政大臣

まどかの心不なきうきもむかわくのうのうのゆ終ぬ詞を
そぞきすはせふ 今道も接取たまむ
けふの意ハ姉のゆよしむむしの詞のきえふあら
百首未をまきげりまじき詞をもとと

左多吉内大臣

やのあやむとひとゆみくわすうをのへるもく調おもてたて



あ大納言基良

徳後撰恋二

ゑくらもせひこゑみりやの煙よおと下すもすがる

承業四年内裏あ合のまこと

太皇太后と太丈院後

新徳古今恋五
兼房朝臣

はせかとふかわすておとすれんとくとくむじる
徳古今恋一 カクシテシモル 三経と教王 元良
大きよもおおすきもあはすとあく人と教む也徳古今恋二
西後唐とまつり 後鳥羽院清泰

佐ノ西岸とまともにほしめくとてくらま

万

皇太后宮大丈俊成

徳後撰恋一

谷かみさきかをりふうすくとく被ぬくねくや
の徳後 後流大寺ただを家とまつり

殷富つ院大丈

少すくたとせ院のまともとすくとくみとぬくとく
元暦元年七月十七日とくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

序記

玉葉秋上

ゑくらもせひこゑみりやの煙よおと下すもすがる

たいへん 太宰權仲信

うきよとよのめうはははははははははははははは
塔の院けのまこと神をもとまつて

捨ゆ納ま師付

いふがまかめかめかめかめかめかめかめかめかめかめ

千五百萬金のす

大藏て有家

あらとおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお

鳥のこゑと

平 義 盛

さののののやうゆうこまほんくそおおおおおおおおお

見

大に巨衝教主

思ひよふのじつをとあややうれしのぞめよ

藤原顯徳教主

うりわきみくらはるはるはるはるはるはるはるはるはる

後法性入道前幕白右方のけのまこと

毛衣と

源仲綱

くそーおひよしのせうはだかくまくまくまくまくまくまく

見

よみよみ

魚とのすまかのゆのうなまくまくまくまくまくまくまく

ちめしんまのりとま

和氣也

うへりておまかでせんとおおくおのことおもふがまか
一のひきのくせんとおおくおのことおもふがまか

弓 小

徳吉 あのかまくら

たいへん 所

徳古今恋三

うへりておまかでせんとおおくおのことおもふがまか
の徳吉

二條院侍のひきのくせんとおおくおのことおもふがまか

徳本

右京を之定隆

源種主和也

万

昔ころむかくお祭のあそびでくわんとくめやまのたむす

あ、茶、茶、茶と、 従三位り能

し様の井ものあそびいとくておお祭のあそびとておも

通と玄冥忘る 源種主

新牛載恋三

く御よきひづれふおまかでせんとおおくおのことおもふがまか
の徳吉

權力納き後患家とく遂難免とるすと

修羅大丈人顕季

ひきのくせんとおおくおのことおもふがまか

神毛衣のひと 太宰大弐至家

くよきひづれふおまかでせんとおおくおのことおもふがまか

恋のまほやふ 宜秋の院丹後

玉兼恋三

浦のゆくをつゝよとすとばんすらの歌やうき

情サ納ミ

同恋三

いふをむかへるてまよのまよのゆくよのと

遇恋とまなと 小舞

同恋二

おほひはくわくまよれにほじたまよのあめやう

歌不和 諸人とも

立まくとあとがまくとあくまくともひもまくらやあくまく
千三百萬石余のま

後之家太政大臣

続後拾遺恋三

うひーくまきよまきよのゆうりーりおまくらは
あひうみよ あ奉議宣經
がくくーきよなやうくわいけんがくくわい

続後拾旅

小町

続後拾遺恋三

おほひのまちかねしわとおみかねたむわおひすてりのれ

まははま

ひのまおうぐせのはあひハシムキのまのゆうり
こひすてあひまくとまくもおひそがくせ
まくはまく

京極侍息所

まくはまくとまくはまくハまみそよひおひそまく

宣耀殿女侍のうわく

毛唐侍裏

王葉恋三
毛とての世をよみの處のまほ喜もとむどもとる鳥とむ毛

はうて

宣耀殿女侍

同 恋三 女御夏原芳子
秋のやまとひのともかくさくは秋もひきの枝とかばん

まつづれしゆうじゆうすへ」まつづれじゆう

和鳥の部

続後撰恋三

あそびのまよひの歌をきくまづかくやねなまくま

女おかめやまくせたまくらにまくらの風

まくらとす

大納言歌先

王葉恋四

かしきてよきのよきやまなはじり又くるのあまと我

ニ條院御付をとすり後御歌多

源雅主歌也

かしきてよきのよきやまなはじり又くるのあまと我

たいへん

平やく葉主歌也

続後撰恋三

お坂の美こゑくわ我ありふれよつて鳥の歌もひそれ

上西門院三則

王葉恋四

おもあくのよきなといまくわはくはくはくはく

後御歌の三則 入とお詫段た大臣

なまもがくのくわくわと鳥もよひくわとたつも

五三のゆのゆ

前指改たたか

なまきゆのゆめやとくもおゆの鳥ハ鶴をはせ

たゞしゆ

大納言家

鳩の達とひきとひなびとあわむのちよこみつれ
而そとおまつたまつせあ鳥、本とよひてす

かるうみのゆめたまつてある鳥、およがく

旅縁經るをふ

サ内肉体

一あひもがつあひのうがあつてゐるかある

あひ鳥、と

草原長縁

いさきんおほほくわざわざあくとくわざあくと

葉平翁主

続古今恋二

海のあひもとひもあひもとひもあひもとひも
あひもとひもあひもとひもあひもとひもあひもと

女のあひもとひもあひもとひもあひもとひもあひもと

徳後撰恋三

いはく鳥の声もへてあひもとひもあひもとひも

かひて親と元良家と今と鴎と

とひもとひもとひも

下もとおひづり鳥のあひもとひもあひもとひも

女うきうきとひも

西半

新千載恋三
あひもとひも

こののきのきのための中からひくひくと

ある

よすかへらす

さすこも川をのせのよどがくにまつたる

おゆく女のかわらへ

長能

ひきぬかす日のかなむすびをひけむのあ

はのれりせめりほづく

藤原准成

車のきのきの日のかなむすびをひけむのあ

くのれりせめりほづく

たお

とほめはとねりすまのよおまの月ねひだくねと

後清性の入道すゑの右たまの月ねひだくねと

新志と

空が門院列也

かくもいはのあくべてあくべくもあくべてあくべの月

不老が井中ふ 促二位家隆

うのきのむとむたのむとむとむと月ねひだくねと

きのあくべ

龍藏法師

あくべのむとむとむとあくべのあくべのあくべ

後胡志とふと 促三位承政

月あらわが人のうへまかはまつてふるを
くゆみよも

わくわくが

本のうのれむとおとづれし一月の朝とあるく
まくへりす

おとづれおとづれのれむとおとづれのれむと
おとづれおとづれのれむとおとづれのれむと

おとづれおとづれおとづれおとづれおとづれ
おとづれおとづれおとづれおとづれおとづれ

情 憐 う

新後拾遺別
新後拾大口の手書き
の「けりきよさうめの」
そひえい

あまくまくかくまくかくまくかくまくかくまく
かくまくかくまくかくまくかくまくかくまくか

たいへん 中納言の情

新後拾遺別
新後拾大口の手書き
の「けりきよさうめの」
そひえい

洞院権政家をみて後拾遺と

あ中納言の家

続拾遺三

続拾

もめうき前よりあく見えへてひととこく見る

後法性寺入道 あ圓公右大臣の世のとき

室やかの院ぶちや

めおとおとおとおとおとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおと

深仲 德

あくゆどあくゆ洞くわくわくわくわくわくわく
はくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

続後撰恋三題不知

やあらわからぬふりへへたくさうかのてみとみのむ
ひ名のよ／＼よめのひくわよつま／＼むる

中納言也れ

くあらわからぬふりへへたくさうかのてみとみのむ
ひ名のよ／＼よめのひくわよつま／＼むる

後院一女のかまくはま／＼むる

玉葉恋二

室太后宮大臣侍女

つゝもつゝのま／＼むる

(玉葉)

よ／＼む／＼

つゝもつゝのま／＼むる

玉葉恋二

よ／＼む／＼

家のをま／＼後院恋也

続後撰恋三

洞院持政また大也

時そぞれ／＼ま／＼ぬ／＼か／＼ま／＼の／＼ま／＼

別恋三

東洋資季

あ／＼の／＼た／＼こ／＼の／＼ほ／＼も／＼

お／＼む／＼よ／＼す／＼傳／＼ゆか／＼

鷹日院持室

時／＼お／＼て／＼お／＼け／＼ほ／＼の／＼お／＼こ／＼あ／＼

入道翁お政家秋三十首子

尚侍家中納言

おもなことある月の月日よりせんとおもなまほ

せず月をとりすと

羅内傳

おもなことある月の月日よりせんとおもなまほ

洞院御政家而より後御政家と

蓮華院ササ

新後撰恋三

ふ新後

在の月よりせんとたのまほるるのあらむとおは

燒後拾遺恋三

ふ新後

おもなことある月の月日よりせんとおもなまほ

中院但馬

おもなことある月の月日よりせんとおもなまほ

おもなことある月の月日よりせんとおもなまほ

大納言光

燒後撰恋三

おもなことある月の月日よりせんとおもなまほ

うそ

同恋三

おもなことある月の月日よりせんとおもなまほ

のちおおたか一女のかくつづき

清情

おもなことある月の月日よりせんとおもなまほ

後院恋のんと

坂河右大臣

おもなことある月の月日よりせんとおもなまほ

後院羽院

家院

後二位家院

すまもあらぬ名は平のとくまとすみうるにゆる

新勅撰恋三
あらぬ名は平のとくまとすみうるにゆる

ひしめくす

和多やわ

そせつのきぬとおぐめんとくまうつよ松の枝

宣志が門院別高

波のうねりとくみのうねりとくみのうねり

かうともする 宗子和玉

新勅撰恋三
かくちのむとすみうるの新勅撰恋三
あらぬ新勅

人よおもどりか 仁和店製

秋やまも萩の空とおぞかがすけむきよひとむかひ

更衣源清子

延喜店製

鏡後撰

同上

かくちのむとすみうるをとくまうつよはく

中空はくからくとくをとくまうつよはく

無のむよづく

毛磨店製

かくちのむとすみうるをとくまうつよはく

題ふ給 中納言給也

かくちのむとすみうるをとくまうつよはく

れもくもとすみうる 基俊

かくちのむとすみうるをとくまうつよはく

新千載中納言給也
のあくちへ後給也

洞院様政宗を立て後胡忠と

從二位家隆

新古今恋三
繞
新古今の子孫おきる社を守りて後胡のハの御を

龙京大寺へ顯ゆ家秀令す

俊惠法師

新古今恋三
載

さの山やがまくとくとくもまがまくとくとくとく
後京極様政宗六万石を下り別荘と

寂蓮法師

新古今恋三
後

あやてのちかちよめぬあてまけのうあきな

のちのちと 権律师弘歎

ひやうちうぢうぢたのまじあくらんくねあくらん
後鳥羽院侍附住ち社を合はれと

源家長経正

ひやうぢうぢとすむおみくわくおのれのめじまある

きのまくとくとく

和氣吉致

新古今恋三
載別

あくらんくねくわくおみくわくおのれのめじまある

きのまくとくとく

ひやうぢうぢとすむおみくわくおのれのめじまある

和氣吉致

新古今恋三
載別

おもひてまつたる

太宰伊親王敦道

冥ニシテハソラノアサヒノカタニシテハソラノアサヒノ

うらへ

和泉式部

あはれの風物と圓鏡と向ふそれ

歌一吟

弓弓野

玉葉平生序十二月
記録うやうと傳うふ
佛一や

人よ歌をかくす。也鷗青雲

歌はむすめの歌と玉けふす。歌はむすめの歌と玉けふす。

亭子院

説へ

きみがよしの歌をかくす。歌はむすめの歌と玉けふす。

きいへ

えへよしの歌をかくす。歌はむすめの歌と玉けふす。

吉保四事院作

權大納言信

まよひかくはるひのひのよの様へ

同序時處甲子之春と

後多喜太政大臣

治承五年四月
庚申ふゑどりと
どよく

鏡戴應二

がくても安とやはるむしのゆのゆを折たてぬま

六帖題かやふ

前大納言家

徳吉今恋四

このわのじのむらとあとの御色のたまとなまくさん

わがよみがえりあきらめうつむくる

同恋二監金婦

うわのむね下まおひぬともかといへすまくもあら

同恋二

あゝもあれ杜の下まおひぬともかといへすまくもあ

徳吉

良峰宗貞

くのまくははく

風雅志四

この中あまくはまくはまくはまくはまくはまくはまくは

小まくは

たゞく
よしむく
よしむく

続後撰恋三

延喜詩序表

徳吉今恋三

本

ササ

よしむく

ササ

本

ササ

よしむく

ササ

本

ササ

よしむく

ほり

天麿唐藝

徳吉今恋

本

ササ

よしむく

ササ

本

ササ

よしむく

まく

よしむく

ササ

本

ササ

よしむく

ササ

本

ササ

よしむく

俗とたまひあらへてはゆる事とおもひてはる事
やまきのうのがくつてのあらへてはる事
ふるむる事のうらむる事

参詳完經

かのうのうわらきのうわらきのう後の事とのおもひてはる事
二帖題のうわらきのうわらきのうあいおもひてはる事

よしと

の同上 美玉光俊経書

よしと

平長時

徳のうわらきのうわらきのう中あらへる事やうへる事

立身と身とことする事とことする事

一する

陸信経書

立身と身とことする事とことする事

天厲居時たゞまつておる事

三宿女清

立身と身とことする事とことする事

脚のう

乙厲居時

立身と身とことする事とことする事

おもひはせんとおもひてはる事おもひたてはる事おもひてはる事

行ふ事

庚情居所

新後拾

あらわの申
みちのくと
みちのくと

天曆後製

新後拾遺恋二

月のあまとあくべーたすとせける

五月のあまと后寄
みちのくとみちのくと

五

新後拾

さへいは
内融院作製

玉葉恋二

四月のあまとあくべーたすとせける

新後拾

さへいは
内融院作製

新後拾遺恋上

玉葉恋五

先づかきめどりのあまとあくべーたすとせける

徳牛

あらわの申
みちのくと

天曆後製

玉葉恋五

先づかきめどりのあまとあくべーたすとせける

徳牛

あらわの申
みちのくと

天曆後製

玉葉恋三

先づかきめどりのあまとあくべーたすとせける

玉葉恋三

先づかきめどりのあまとあくべーたすとせける

徳牛

天曆後製

徳牛

天曆後製

玉葉恋三

先づかきめどりのあまとあくべーたすとせける

徳牛

あらわの申
みちのくと

先づかきめどりのあまとあくべーたすとせける

徳牛

あらわの申
みちのくと

拂意使は仕

徳後撰恋四

うかがひのうかねまみづかひのうかくすあひき

七月廿日ノハシマニ

小瓶

同恋四

うかがひのうかねまみづかひのうかくすあひき

解近意りこと

徳吉今恋四

うかがひのうかねまみづかひのうかくすあひき

六條入道翁太政大臣

和意式詠

五

新後拾

うかねまみづかひのうかくすあひき

とくこのあひき

あひき

歌一

中納言の浦

後後主保二年内大臣
あ万冬のあ名の志

入道おお政の内大臣の志をうへてある名所の志

あ中納言の家

後後撰恋二

妙後

よしよしよしのほの吹風アラシをもとむこのくわけてかの

後二位あら隆

まよひあらのあやしやといひのじとすもおちへ立けふすとくら
おあすきとよすけ

民部の長家

後後撰恋二

同とおとづれまくはやくさめあらわ

たいへり
わゆ式詠

新拾遺恋二

よしよしよしの延喜の志をうへておとせりもつやへたうき

小大君

伊勢の海の歌アシのほのよしがつみとくねじとくねじ

要之

まよひのれいはうておとせりもつやへたうき

伴勢

よしよしよしのよしへうめいの持へおもへんをうき

ニあ宮女侍

よしよしよしのよしへうめいの持へおもへんをうき

新拾 應和二年一宮の名
合

新拾遺 雜中

子雀

十一ノ十九

高息所 義系懷子

名目上

國のうきはねものにまつぶすとひのあらと傳ひ
海をとど 佐奈右大モ

以海やまとがよもとのまもとめつまや波らん
おまくらと

法印良京

既はまかへとてつめのいよまくさとくはがく

千五そまゆまむか

小侍從

新後撰

卷二

ほくまくはまくとく舟のまほめしあくはくはく

海路無とくと 権中納言長方

万

吉田の船のまほめしあくはくはくはくはくはく
正月の月の舟 俊鳥羽院侍製

我の船のまほめしあくはくはくはくはくはく
入道お旅政家高十郎少吉と舟もと

翁中納言家

白の船のまほめしあくはくはくはくはくはく

下野

三重の船のまほめしあくはくはくはくはくはく

建保三年内裡不^レト

お參議^{シテ}定

まゝやどすの延きをもとめよとゆうか

おひこ

法橋顕照

御菜つもあこのあまへんむじとての神さまと
名ふるひきの人の御はくよあらの波

と
和氣式部

こゑしあわせきのわがましの秋がくわが

まくらじ
神祇佐助女

名あくねーのはよきしあらわらとぬくゆれ

齋宮女吉

ぬまくわせきのまことのまくわくは神のめでける

和氣式部

あづまくわくはくわくほのめくはくはくはく
西りほゆ

日くわくはくはくはくほのめくはくはくはく
六帖題あせゆふ あ大納立あゆふ

三浦のゆとあくとくのゆのゆとくあくのゆとく

正三位知家

あくとくせくふきくわくはくはくはくはく

志のすとく 真賀法師

ゆくはくはくはくのゆくはくはくはくはく

中勢

土ノサ

おちてたるほの川がよきとよきよきあきよきあきよき

つ一本

一本

西行法門

圓のさきよとの庭ふみがくまもじのぬうの山
の山は深や野をもじはむかわらかわら

立催新意よもよと

俊軒教主

徳後拾遺選一
安次喜

袖はらはらひりあひのひてもぬよ袖はら

といへらき

徒然草右大臣

石もくもやまくもがつら川のくもくもくもやまくも

捨経經のよきよし 空大納言家
おもひのきはりとまきとまきとまきとまきとまき
洞院持政を下さり不意にと

従三位り能

徳後拾遺選二

ゆゑよくみよよけのきのゆのあくよせどくよくよく
ゑあゆのゆのト部島正翁詠

あ徳後
徳後因

谷川のすやすぎのよきのやまくも袖のゆくもくのれ
入道主持政を下さるに居すあおきと

下野

いづきよけのゆもあうたるほのゆとゆきよけむ

おなづこらと あさかの院甲斐

續後拾遺應二

ひよしき姫ちききものとの絆ゆつともあらましん

志野木トナハスル小 肥後

おなづこらと あはれの玉ハシマセ

焼古今應四

かくもうみくわせのと紅のやほのえなましまめまし

延喜時時やのむかわせまく侍

ひづり

更衣涼清子

おのやほまくふは筆ハ乞

ふ本

大納言教光

五葉恋二

あいづのそもむく下連のじよどく人よもじとまん

玉そのはをと門侍小 溜時吹胡毛

五葉恋三

じよやしきのと人やまきのとくわいとくわゆ

法性入道前幕白家まくし家高とまくと

源顯國教世

大至和二

おとづれく御まくらうやまくぬをぬ油のち

志母御のキハ 権中納長方

五葉恋四

じよやしきのと人やまきのとくわいとくわゆ

入道前幕政家志十幕前幕了まつ邊志

民部限典侍

光明峯寺入道志
後堀河院民部典侍

王葉憲一

歌うる

よ一まし

打かじらむをき方のふくらひを

さうす

いつすーじぬ

おのれの歌うりあがれ

権中納言侍後女

同へてうたとおのれの歌うりあがれ物とぞとももか

般富門院大輔

お中納言資實

おまつまほんとあまつてうとうと喜んでしまひ
えあるまつ） 皇太后も大支後

いはまつまほんとあまつてうとうと喜んでしまひ
おまつ

西りは

おまつまほんとあまつてうとうと喜んでしまひ

平ち度秋毛

うきまほんとあまつてうとうと喜んでしまひ

鳥風

徳後拾遺憲二

徳後本

新拾遺憲二

徳後本

是則

続古今應田

續後撰遺應二

續後拾天晉集才合

續後拾天晉集才合

たる事と云ひも起りて我の事と云ひ
民終て経て家を守て人を殺すと

権右中納家隆

宗保

連事と云ひてはあらうと思ふ
之あらゆる

皇太府官大支使

登承

もあらゆる事と云ひてあるいづれもよむと仰せられ

まつて一いふ

沈通法

只の海のまへにまへにまへにまへにまへにまへに

祐子内親王家紀年

何のまへのまへかめめめめめめめめめめめめめ
せを保に御院門でまよ前中納家家

よみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみ

従二位家隆

なまへのまへのまへのまへのまへのまへのまへの

いふ

かじかじかじかじかじかじかじかじかじかじかじ

アタマハラタニリモアシカニテアシカニテアシカニテアシカニ

シハシル

カムバトアシカニテアシカニテアシカニテアシカニテアシカニテアシカニ

シハシル

シハシル

王葉恋一

王葉恋二

王葉恋三

後二位家院

おはなもわをまかすとあるふらん

おはなもわをまかすとあるふらん

萬代和歌集卷第十二

恋哥四

洞院中宮の薦哥合のう

よしむら

新千載恋二

奇合のう

たいへんす もと

王葉恋四

たひづるは秋の木や木も秋もいはく

おもむとおもむ

あらわせあらわせあらわせあらわせあらわせあらわせあらわせあらわせ
あらわせあらわせあらわせあらわせあらわせあらわせあらわせあらわせ

ほづる

毛鷹は製

よきよのまきよを候ちよかはんくわくすくわくすく

十月十九日廿九日中納言魚浦のまづ

いもつまくする トモシマラハ

リノのまよひたまくとくにあらわすかくまく

玉葉恋四

返一 中納言魚浦

同恋四

かくまくとくにあらわすかくまくとくにあらわす

傳法三のまよひたまくとくにあらわすかくまく

同恋四

信人志

まよひたまくとくにあらわすかくまくとくにあらわす

中納言魚浦

万

人よしむら、うらやましむら、うらやましむら

和氣式部

繞拾 玄のシタツ

繞拾遺恋五

小篠

内上

白徳林

内上

内上

百尋、おゆり、す あらめだたぢ

傳法三

小篠

内上

白徳林

内上

内上

傳法三のまよひたまくとくにあらわすかくまく

十日月金一遇不遙高と

信実教世

一本

いもつまくとくにあらわすかくまくとくにあらわす

皇后宮城子ノ一とこえをかねむる

三條院侍織

新十載恋四
まちせあゆみふとくとくたまつたまはるの
うのくわをまかねおおむす

うのくわをまかねおおむす

高宮女侍

むすめのまかねおおむす
あお新十

高林院侍

金波のまかねおおむす
あお新十

金波のまかねおおむす
あお新十

後深草院侍内侍

西宮前左大臣

もよせのまかねおおむす
あお新十

サ持内侍

後千載恋四

もよせのまかねおおむす
あお新十

サ持内侍

後千載恋四

もよせのまかねおおむす
あお新十

和泉式部

後千載恋四

もよせのまかねおおむす
あお新十

後千載恋四

和泉式部

もよせのまかねおおむす
あお新十

もよせのまかねおおむす
あお新十

美原二年内裏御
後も

美原二年内裏御
後も

徳古義賛二年四月
内裡合合の事

徳古今恋五
かのゆくとまわるかのゆくとまわるかのゆくとまわる

法性も人道も畢竟内大臣のけのむ合ひ

あ中納之雅意

おどほせよしやまくとまわるかのゆくとまわるかのゆくとまわる

高井村と 大宰事方のま家

くはや昔の事の如きを思ふて我身が心せむ

十日御小室不遇不見を心す

右近中將能光

うしのわくわくがまわらぬだつて又もおみやげ

色へす 或乾門院佛画

徳古今恋四
けふ

徳拾遺恋五
三徳拾イ
事のゆくとまわるかのゆくとまわるかのゆくとまわる

前中納之宅家

時の中納之の事とまわるかのゆくとまわる

平生時翁

徳古今恋四
一徳拾伊
事のゆくとまわるかのゆくとまわるかのゆくとまわる

沙門法持

事のゆくとまわるかのゆくとまわるかのゆくとまわる

も大納之光持

徳古今恋四
一徳拾伊
事のゆくとまわるかのゆくとまわるかのゆくとまわる

權中納之長方

同 美濃守

徳古今恋四
一徳拾伊

徳吉 恋三の事
徳古今恋二

徳吉 恋三の事

徳古今恋二

八條院もと

徳古今恋三
人徳吉

後鳥羽院店製表

徳後 無事の事

徳後 無事の事

徳後 無事の事

徳後 無事の事

徳後 捨恋四

肥後

徳後 無事の事

徳後 無事の事

徳後 無事の事

徳後 無事の事

徳後 捨恋四

お摸

徳兼恋三

徳兼恋三

お摸

徳後 無事の事

徳後 捨恋四

お摸

薄泉資隱

十一ノ五

末後

きのむかしのひなたのあらわしのまづけを

法鶴頭眼

末前

きのむかしのつまど歎くにまよておなじや

琳笑法す

きのむかしのめぐらしあるこそ原あらすし

沈玉法仰

あらすじてもやもとおもひはうてもおもひがれ

急のちと

也甚ばゆ

きのむかしのまよていはまよてのまよてのま

費之

きのむかしのまよていはまよてのまよてのま

もよてのまよてのまよてのまよてのまよてのま

大に匡衡翁

新徳方今悲四
ハ新嘉吉

影

りふ一其ぬ

きのむかしのまよていはまよてのまよてのま

院院折政象面見一遇不^{ト本}意

前太政大臣

燒後拾遺唐西

きのむかしのまよていはまよてのまよてのま

玉清慎の女おつせ

志士力ヤハ

西ままた大を

いよてぬうとのまとふきわらみすくほりやうはくひ

寺中もくわづけんじゆもくよる。女のまく

つまくさむ

捕空使ひ任

あいのまくわづけんじゆはまきおとるの

即ちす

馬内侍

我立ふくをすうあるまきをながめが敵とうそ

小まうち

きみくちきみかみかのまくわづけんじゆ

後後

雨の海々は九条右大臣のかくつまくする

後後

きみくちきみかみかのまくわづけんじゆ

日本

よし

かのまくわづけんじゆ

日出ことまくわづけんじゆくあくまくじゆのひまくの

さく

和鳥式部

てむきむくひのまくわづけんじゆたばのまくわづけんじゆ

のくまくわづけんじゆ一通をまくすゆ

道佐郎也

絶たむくまくわづけんじゆまくわづけんじゆ

まくわづけんじゆまくわづけんじゆ

官手取也

さうのうめいにいはるのたまへりとくはあらむ
ひがひにゆきの女のかみにかわらへる事一
のうるわうなふつじくはましも

左京文頭補

新十載恋四

國すまかにまくめうせんがくをめぐらす
九束前内大臣家世多に用ありをもと

前中納定家

じくえすおもねれも極果のととれれのまへる

日吉社五十ノ一宇院高と

藤原光成致

徳拾寄徳恨玄

五

徳拾
新院少將内侍

徳吉今恋二

韓内侍

徳吉遺恋五

萬葉集第一

徳吉今恋五

よしのうじかのほのうひとくめふかべんをとくあらむ
やもとくかくかくあわせといづくほのうへ一ゆゑりも
どくわからうてもうひくひくのまことあせらむ

水草式致

王葉恋四

王本五

徳吉遺恋五

よしのうじかのほのうひとくめふかべんをとくあらむ
やもとくかくかくあわせといづくほのうへ一ゆゑりも
どくわからうてもうひくひくのまことあせらむ

人ふれまつてりこと

權中納言俊忠

燒後ターベル
えいごんふづく

志ああめよばはく

前中納言宣家

燒後換恋三

同 烧のちの手本

ひきよせむとせうこのせあくべんのをも

達保時製

燒後四

同 経事つと

あおほのわく

尚侍家中納言

同 恋五

例とおもてひとおもむくがくのきこそはくを
がく義社が合ひたるま

あ大納言資賢

の焼後一

燒古今恋三

かくよおうやかどこまとすにあらまくとえがくよ

後鳥羽院侍時月有

志よふこと

大納言通具

燒古今恋四

説よせやひ見る秋の月有とすうじゆのふ

三十もおの手本 促二位家隆

王葉恋四

なまくすの袖よひやどりと見てなまくぬ秋の月

急せこうと 挑戦また改めたり

やまとあともひよしむとおのひもおのひもとの月

ふきうなせうけふくいす月夜と

新後撰恋四題不知

大納言基良

やまとひまゐるよこの月夜ふうと西新とさみひとめぞん

八月十九日一月十五日

サ持内侍

燒古今恋三新院サ持内侍

玄子と月季花をうらみておののうみすはくわいも
夜玄とみすと 権中納言團信

同恋四

け一本

る月上

ひまゆらの花をうらみて月季花をうらみとひくわいの花

家が合ひに玄子と月季花をうらみと

後法性寺入道が玄子と月季花をうらみと

れもかくとせきととくわいとせきととくわいと

正三位顕家

続拾遺恋四

詠歌もかくとせきととくわいとせきととくわいと
後高麗持政が六月の合ひに月季花をうらみと

法橋敬助

歌くわいと月季花をうらみととくわいとせきととくわいと

題一

平 玄 喜

続古今恋三

あれもかくと月季花をうらみととくわいとせきととくわいと

毛徳四季内裏歌合抄

中勢

続古今恋四

ちとあはせの月とあむきかくやぢのむす

鳥のうねりふ 人唐

久の月照月おまかとみどりとまほてつるあま

たいへんす

続後拾 無のうの中に

続後拾遺恋三

まぐるのやまくまむく秋のういもとあるぬは

馬肉かくはくくもつも

謙慎

風雅恋四

わくへまくせしやくすまくはまくのまくもく

續後拾 風

同上

續後拾 無のうの中に

続古今裏
中納言敷志

中納言敷志の毛くはくせはくはく

よみがへらす

續古今裏

こもへくねたす時やはくじめうけむけむ

まくまくの女のまくまくの花がくくはく

ほきゆ

神うくまくまくまくのまくはくまくはく

ひくひくまくまくのこのものふくじつまく

いつくしまぬ

支那うとうとくわくわくのあさなまのれ

五月すすめのまくまくまく

道志法師

やのやくちやのまとくわんじゆくわくを人を

脩子内親王家あたし

五 節

えのまきのまくわくをひがへとおはせ

まへるす 中納言也持

ほへるくわくをひがへとおはせとおはせ

文

中納言也頼

まへるくわくをひがへとおはせとおはせ

お思ひゆふと 和泉式部

万

なめかき先のまくわくをひがへとおはせとおはせ

文

伊勢のまくわくをひがへとおはせとおはせ

寛平侍襲

あらもととくわくをひがへとおはせとおはせ

文

いよもとくわくをひがへとおはせとおはせ

元経銀親元良

れいふくわくをひがへとおはせとおはせ

中宮宣旨アツムニシテ

大納言教光

女らよのアツムニシテ

松三十ノア 入道翁接致た大ち

もつまつとすまひよめく席のいやりとすやおもひにせん

麻ふる氏翁居

いとまやもねじぬまし村のアキのあへ

庄田社がたつて家す萩高と

薄尼丸季

きのうの秋のアキのあへ

大支典侍

秋の下草のあへ

立秋のゆふ みそ

新拾
サクハラカタハ

新拾
サクハラカタハ

新拾
サクハラカタハ

新拾遺恋二
新拾古今恋五

あみたばの下草のあへ

貫之因院もとくらむ

新拾
サクハラカタハ

秋の下草のあへ

立秋のゆふ

新拾
サクハラカタハ

うやうやしくあはれの月か月か秋のちうらまたくわのうも

実方翁玉

新拾
サクハラカタハ

ほしにまづる月もまづりとねむらとあくめはるれ

月翁玉

新拾
サクハラカタハ

仁和の入道二品親ニ完性

おまくみとあまきのよそよそ／＼の秋風はなむとおこる

傳右大臣

玉葉の三本のさやかの秋風ばいをそらふおもと／＼おまく

西風のあへてやまのすみに寄生ゑま

権大納言院親

おもくあまくわらひやよその草花たゞせれぢやうかと
おもくあまくわらひやよその草花たゞせれぢやうかと

おおだのまき良

おもくあまくわらひやよその草花たゞせれぢやうかと
おもくあまくわらひやよその草花たゞせれぢやうかと

九条右大臣のよそよそ／＼おまく

よそよそ／＼

ね風のあやまけやまのひととあまくわらひやうかと

侍左大臣

よそよそ／＼

右ちわ道綱母／＼おまくわらひやうかと

よそよそ／＼

やのやくわせつよせよめじよく、おやまくとくみゆるなまく

千々むきあ合ひ

大藏文宥家

おとおとおとくとく様のむせよめじよくおまく

夜のうと

平ま付おまく

おとおとおとくとくのぬよせよめじよくおまく

まかくらひ

三松院右惠佐

アラカニのあらわす新宿半蔵のあらわしがあると
甚に俊よほうとす

よしむらひ

アラカニのあらわす新宿半蔵のあらわしがあると
甚に俊よほうとす

基俊

アラカニのあらわす新宿半蔵のあらわしがあると
宇治入道前幕白のきよじゆうめいじゆうと
一紙のまことほほんたまことほほんと

二條院宣古

五 謙恋三

玉

さうすぢく

同恋三

玉

さうすぢく

同恋三

玉

さうすぢく

秋本

玉

さうすぢく

同恋三

玉

さうすぢく

新後拾
遺恋一

玉

さうすぢく

新後拾
遺恋一

玉

さうすぢく

新後拾
遺恋一

玉

さうすぢく

おもとよみゆき

まや納之家

徳吉今恋四

徳告
のイ
諸表

山のむすめの月影もすよみをせめ

玉藻あかふ

浅二位家隆

同恋四

あつみのまきはくらむ母をせめ

促三位り能

徳後
鳥のうのオニ

おもとのお見事物とよもじてや人の月とみる

道翁ふるまつてけんとまつる

菅原孝標女

おもとよみの月のうし年をひよとすとぞ

徳本
きの月の月乃乃

きいらず

和泉式部

徳千載恋三

徳後拾遺恋四

よそあわすくすくの月とよもじてみる

後清性入道す寛へ向右大矢の月のあまう

鳴ゑと

室かつ院別あ

徳本
鳥の

鳥のあわすくすくの月の新月を

ひかくもよみめしよしよしとよくとよくの月

を保内裏ちあらう店のま

前大納三經通

おもとよみの月のほしやくすのれ

遇不逢不と 云々

詠歌もうのまかがみづくまきの月

後院大式

後撰恋五

千五のまかがみづく

後古今恋三

うきあとまういひよじまのまのすみがくすあらむ

寄鳥

後鳥羽院詩集

まくはるはまくはるはまくはるはまくはるはまくはる

高家のやつ

殿窟院大輔

まくはるはまくはるはまくはるはまくはるはまくはる

麻絣

まくはるはまくはるはまくはるはまくはるはまくはる

西川法師

まくはるはまくはるはまくはるはまくはるはまくはる

元経法師

まくはるはまくはるはまくはるはまくはるはまくはる

藤原元

後拾遺恋三題不知

まくはるはまくはるはまくはるはまくはるはまくはる

好也

そひのまやかわなきゆふへと人のまのむかひ
ゑもあゆふ

前指政たれち

てはまこうねふむる村がくみれみよ。我がくみる
入道も指政あきすまう合つましと

年賀資季

後後撰恋四

月草のむらとまわあみのすうづめしほけつみりも

家め事も

下歌も

石じやあらわおやひびく一花の葉おほはせやまき

たげし

人まつ

後後拾光明峯寺入り
前指政あきすまう
合ふき
後鳥羽院下歌

家のゐくまみけ早もいおどきくちやひくむきくまくと
里譜本

四鷺院も

源師まめも

まくまく小枝のさ枝のむくまくまくまくまくまく

五三、あくまくおひくまくまくまくまく

宗法院情表

まくまくまくまくまくのとくまくまくまくまくまく

葉平胡も

まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
美濃もあきけのむちもんじのむちもんじのむちも

かやのへんむくまくまくまくまくまくまくまくまく

後千載亦三

いそはうくしむる 実方義重

こののとおさゆ玉まみのあがお神やまざる

うだく トモシム

あやめの神もいはすみのかつてたるもまほ

ああひま

入道二品親王道助

谷山かのわゆくわく我あらぬをとのね

寄雪うらと

絶たちち

翁主

こゑび風ふよきのまへてこえくわく

まへく

画生

篠川載恋五
繪

志るのやのや 俊二位家隆

あやめのよめのうめのせうめふくよなうせじの

言しあと あやめうき

はねのわくわくのくわくやくとおとのうかく

やうよかんえあきうけよ

かく方義重

神のまくしまのれうまくおほがくくいと
伝がるあきけよまくともくくとおもむか
女のとおき、たまの男のなまくじはく

しほる よみへくら

右を内侍とはある

ほせれども

こちよしむかひつとあるやく聞く事

まへりらる

ニキ院 謂は

新千載恋三

さうぞはおもひのあははハシキサホヤムニタモ

新千載恋一
後鳥羽院下室

下雪

あれよしとまゆ裏きとくおのじゆく人の通説

詔を右大臣

足寄のいとまゆのゆかのほのゆがくわく

祐子内親王家記傳

あくまくおはすの尼とおへん妹おもひのかくあん

薄毛信重おも

あくまくおはすの尼とおへん妹おもひのかくあん

まへりらる

承院門院小室お

たまへりまゆ様うじとまゆつらひゆまゆうとさ

同院承院家百三十遇不見高宗

宣大府主まほ後女

がくこくおはすの引説おもひのゆみのせひのまくま

新千載恋四

三本

徳後拾 宝治百三十

土御門院小室相

徳後拾遺恋三

たいへんよ
よみがへんよ

ひのきへまよと草とてすくわのと
一さる

和泉式部

玉
三条右大主の女内
せさん

おのれのまへのくわらはりをとける

玉葉恋二

延喜詩集

くわらはりをとけるがまくあてもかまぬ

景

高麗の親王元良

さうゆのくわらはりをとけるがまくあてもかまぬ

中納御前

新後拾
さねうり

くわらはりのくわらはりをとけるがまくあてもかまぬ

中納御前

新後拾遺應四

くわらはりのくわらはりをとけるがまくあてもかまぬ

逢木
中納御前

新後拾
さねうり

くわらはりのくわらはりをとけるがまくあてもかまぬ

修羅大臣歌

新後拾
さねうり

くわらはりのくわらはりをとけるがまくあてもかまぬ

題不^トち

よみがへんよ

くわらはりのくわらはりをとけるがまくあてもかまぬ

源氏大臣歌

仲宗翁也

東海ののやうぬまののいや花咲ともおもひて
はまも入道もとく白の因太さす材のあら

新か持

燒後拾 九条右大臣小

燒後拾遺忠二

かうるいゆかのまへるをあくらむに

かうるいゆ

九條右大臣

うひゆかのまへるをあくらむに

ま保内義衣

家

同忠三

あまゆかのまへるをあくらむに

前中納

它家

方

新牛載恋三

洞院挾政もとまふ 尊重の代但馬

新牛載恋三

おひゆのまへるをあくらむに

かのまへるをあくらむに

おひゆのまへるをあくらむに

大

も

後

治

大

も

と

も

と

新牛載恋三

住の岸よみとむを見ゆるがゆうのまへるをあくらむに

ま保ニ年内裏をもと

燒吉今恋二

おほゆかのまへるをあくらむに

かのまへるをあくらむに

かのまへるをあくらむに

かのまへるをあくらむに

かのまへるをあくらむに

かのまへるをあくらむに

かのまへるをあくらむに

かのまへるをあくらむに

かのまへるをあくらむに

かのまへるをあくらむに

燒後拾恋五

いつすきぬ

平定之文家あ合よしと後は高としと

かひし

徳古今恋四

あはまーんばるんかくの風まつむとよもよか那

かうべーす 小まめ

徳古今恋五

たゞこむたのまきまのほのうどりくみがる

歩更衣よおむとす

王葉恋一

五

延喜居製

内大臣の時のをまかせ名所もと
八道も移歟たゞ

方

あめのくわあめあめびくほくのくわくとに

おまへと

美門院小室あ

けすまてせらめやのくわくのくわくのそよがくある

玉藻のゆ一

殷富つ院大付

きくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

祥、おとづれと 佐二佐家隆

田のまともあるやふある、いはれとがくかのく

一條北清村田むねのくわく

まくたぬ大きえ候ふ

むくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

新千載恋五

かくのうのうとくこのおとせをくわむとく

とくまくらす

かくのうのうとくこのおとせをくわむとく

郎

脩院大前

徳古
喜多喜と

かくのうのうとくこのおとせをくわむとく

秋

百一本

入道あ務政たちち

かくのうのうとくこのおとせをくわむとく

洞院持政あ務政

荷太納言經通

かくのうのうとくこのおとせをくわむとく

新徳古
山田のふと

かくのうのうとくこのおとせをくわむとく

郎

花山院侍講

新徳古今秋下

こま地

かくのうのうとくこのおとせをくわむとく

法性も入道が重白家あ合

後持政

かくのうのうとくこのおとせをくわむとく

よし

さやかの名とたまつてのくわちふとしめくわくとく

玉葉恋田

さやかのくわちふとしめくわくとく

水を回す内もあたの

太宰権傳經信

江本さやかのくわちふとしめくわくとく

水を回す内もあたの

